

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

京都府舞鶴警察署

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境			0.40			3.1
1 音環境		3.0	0.15			3.0
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40			
1.2 遮音		3.0	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.60			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音		3.0	0.20			
2 温熱環境		2.6	0.35			2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38			
2 外皮性能		3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38			
2.2 湿度制御		1.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30			
3 光・視環境		3.1	0.25			3.1
3.1 昼光利用		3.6	0.30			
1 昼光率	民間が活用するスペースは水平に連続した開口を設けている。	4.0	0.60			
2 方位別開口						
3 昼光利用設備		3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30			
1 昼光制御		3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25			
4 空気質環境		3.8	0.25			3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.50			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材を全面的に採用	4.0	1.00			
4.2 換気		3.3	0.30			
1 換気量	建築設備設計基準による計画としている。	4.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33			
4.3 運用管理		4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50			
2 喫煙の制御	敷地内に喫煙スペースを設けていない。	5.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			3.7
1 機能性		3.8	0.40			3.8
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40			
1 広さ・収納性		3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33			
3 バリアフリー計画		3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		4.6	0.30			
1 広さ感・景観	事務室の天井高さは2.8mとしている。	4.0	0.33			
2 リフレッシュスペース	職員用の食堂を設けている。	5.0	0.33			
3 内装計画	府内産木材を使用したエントランス、待合スペースを計画している。	5.0	0.33			
1.3 維持管理		4.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	内装・外装を防汚性の高い仕上としている。	5.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		3.9	0.30			3.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.6	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	官庁施設の総合耐震・対津波計画基準における構造体Ⅰ類とする	5.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	浴室排気はステンレスダクトとし、耐用年数に配慮している。	3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			
2.4 信頼性		4.0	0.20			
1 空調・換気設備	各階室の種類に応じた空調・換気計画としている。	4.0	0.20			
2 給排水・衛生設備	井水利用設備を設けている。	4.0	0.20			
3 電気設備	屋上機械置場を設け、浸水対策としている。	5.0	0.20			
4 機械・配管支持方法	地震力に対し、移動、転倒、破損が生じないよう固定する。	4.0	0.20			
5 通信・情報設備		3.0	0.20			

3	対応性・更新性		3.4	0.30	-	-	3.4
3.1	空間のゆとり		4.6	0.30	-	-	
1	1 階高のゆとり	階高4.4m以上を確保	5.0	0.60	-	-	
2	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比0.14	4.0	0.40	-	-	
3.2	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30	-	-	
3.3	3.3 設備の更新性		2.8	0.40	-	-	
1	1 空調配管の更新性	-	2.0	0.20	-	-	
2	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4	4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
5	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			3.3	0.30	-	-	2.4
1	1 生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	2 まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	3 地域性・アメニティへの配慮	-	3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
3.2	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.3
LR1 エネルギー			3.3	0.40	-	-	3.6
1	1 建物外皮の熱負荷抑制	屋根・外壁の高断熱化、LowE複層ガラスの採用	5.0	0.20	-	-	5.0
2	2 自然エネルギー利用	2方向以上への開口を設けている。	4.0	0.10	-	-	4.0
3	3 設備システムの高効率化	BEI値0.57としている。	3.3	0.50	-	-	3.3
	集合住宅以外の評価		3.3	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4	4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			3.3	0.30	-	-	3.1
1	1 水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1	1.1 節水	-	3.0	0.40	-	-	
1.2	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	-	
1	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	1.00	-	-	
2	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	
2	2 非再生性資源の使用量削減		3.2	0.60	-	-	3.2
2.1	2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.10	-	-	
2.2	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.3	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.5	2.5 持続可能な森林から産出された木材	府内産木材を使用	5.0	0.10	-	-	
2.6	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-	3.0	0.20	-	-	
3	3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
3.2	3.2 フロン・ハロンの回避	-	3.0	0.70	-	-	
1	1 消火剤	-	-	-	-	-	
2	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
3	3 冷媒	R32	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			3.3	0.30	-	-	3.2
1	1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率を71%としている	4.1	0.33	-	-	4.1
2	2 地域環境への配慮		2.5	0.33	-	-	2.5
2.1	2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
2.2	2.2 温熱環境悪化の改善	-	2.0	0.50	-	-	
2.3	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1	1 雨水排水負荷低減	計画建物東側に雨水貯留槽を設けている。	4.0	0.25	-	-	
2	2 汚水処理負荷抑制	下水道法に基づく基準未満の水質としている。	3.0	0.25	-	-	
3	3 交通負荷抑制	一般車両と警察車両の棲み分けをしている。	4.0	0.25	-	-	
4	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3	3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	1 騒音	-	3.0	0.33	-	-	
2	2 振動	-	3.0	0.33	-	-	
3	3 悪臭	-	3.0	0.33	-	-	
3.2	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	2 砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	
3	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	
2	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

京都府舞鶴警察署

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	2.0	○	○	○	○	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	10.0		○	-	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	2.0		-	○	-	-	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	-	○	-	○	-	-						
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	○	-	-	○	○	○							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	○	-	○	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0		-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	1.0	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		2.0	1.0	-	1.0	-	-	-	2.0	-				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	2.0	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	3.0		-	-	-	-	1.0	-	-	1.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	1.0	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうちに光る光への対策	2.0		-	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSG	0.5	窓の日射熱取得率(η) -													
U値(W/m ² K)		窓システム	4.0	屋根	2.0	外壁	2.0	床	2.0						
住戸部分		窓システムU値 -		外皮UA値 -		η AC -		η AH -							
屋光率	2.1%														
自然換気有効開口面積率	3.3%														

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収容性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅の評価

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

執務スペース	6.0㎡/人	病床	8.0㎡/床	シングル	15.0㎡	ツイン	22.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡						
天井高	2.8 m						
リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%				
想定耐用年数	25 年						
想定必要間隔	15 年						
想定必要間隔	0 年						
想定必要間隔	0 年						
階高	4.4 m						
壁長さ比率	14.0%						
床荷重	2900 N/m ²						
外構緑化指数	34%	建物緑化指数	13%				
空地率	20%	水平投影面積率	12%	地表面対策面積率	16%	舗装面積率	7%
BPI/BPI _{lim}	0.61	断熱等性能等級	等級4 相当				
自然エネルギー直接利用量	2 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	80.0%	採光を満たす住戸数	80.0%		
		通風を満たす教室数	80.0%	通風を満たす住戸数	80.0%		
		太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
BEI/BEI _{lim}	再エネ有	0.57	無	0.57	オフサイト再エネ有	0.57	-
一次エネルギー削減率	再エネ有		無				-
雨水利用率	0.0%						
特定調達品目	-	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-		
使用比率	100.0%						
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1430				
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	675				
見付面積比	44%	隣棟間隔指標Rw	0.40				
地表面対策面積率	32.0%	屋根面対策面積率	6.0%	外壁面対策面積率	1.0%		
見付面積Sb	40,000㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	200 m	基準高さHb	450 m		
緑地	430㎡	水面	㎡	保水性対策面	300㎡	高反射対策面	200㎡
				再帰性反射対策面	300㎡		